

議員提出議案第16号

中川河川を利用した災害時対応策の充実を求める意見書

上記の議案を提出する。

平成26年6月25日

提出者

1 番	むらまつ 勝康	5 番	伊藤 よしのり
6 番	米 川 大二郎	7 番	江 口 ひさみ
8 番	山 本 ひろみ	9 番	向 江 すみえ
10 番	天 野 ゆうや	11 番	中 江 秀 夫
12 番	おりかさ 明実	13 番	小 山 たつや
14 番	牛 山 正	15 番	く ぼ 洋 子
16 番	秋 本 とよえ	17 番	峯 岸 良 至
18 番	新 村 秀 男	19 番	かわごえ 誠一
23 番	中 村 けいこ	24 番	平田 みつよし
25 番	筒井 たかひさ	26 番	小 用 進
27 番	池田 ひさよし	28 番	黒柳 じょうじ
29 番	上 村 やす子	30 番	三小田 准 一
31 番	中 村 しんご	32 番	荒 井 彰 一
33 番	上 原 ゆみえ	34 番	出口 よしゆき
35 番	安 西 俊 一	36 番	梅 沢 五十六
37 番	倉 沢 よう次	38 番	秋 家 聡 明
39 番	米 山 真 吾		

葛飾区議会議長 秋 家 聡 明 殿

中川河川を利用した災害時対応策の充実を求める意見書

本区は、河川に囲まれた東京の東部低地帯としての地域特性により、多くの水害に見舞われた歴史を持っている。

現在は、都が地震に対する安全性を高めるために、本区の中心を流れる中川において、既設護岸の補強と河川内の地盤強化等による耐震対策事業を進めており、こうした治水対

策の向上と共に首都圏のベッドタウンとしての本区の重要性はますます高まっている。

また、河川に囲まれて暮らしている本区民にとって、水辺が整備された街づくりは、住民生活の基盤強化に繋がる重要な問題である。

しかし、隅田川両岸・荒川右岸の整備されている西側地域と比較すると、荒川を境にした東側の本区地域は、災害時に人や緊急物資を運ぶための水上輸送拠点としての整備保安状態が大幅に劣っている状況である。

このような中、大規模災害が東京で発生した場合には、都の定める地域防災計画に基づき、防災船が救援物資、医療救護班及び患者、帰宅困難者等の移送を担う重要な役割を持っており、特に大地震発生時には、水上輸送の果たすべき役割は運送・運行手段の輻輳を回避する上で非常に重要である。

以上を踏まえると、区内の河川を利用した災害・緊急時対応策として、防災船の運航ルート具体的な検討や、船着場を適正な場所に設置のうえ設備の運用を検討するなどといった方策が望まれる。

よって、本区議会は東京都に対し、本区の中心を流れる都管理の中川を利用した災害時対応策の充実を強く求めるものである。

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出する。